

策定年月	令和6年12月
見直し年月	令和7年4月

麦・大豆国産化プラン

産地名：栃木市岩舟(静和)地区

(作成主体：株式会社Tanaka Farm誠)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

【事業対象作物】

・大麦・大豆

【現状】

- ・栃木市静和地区の農業は、水稻を基幹として、麦、大豆、園芸作物等を組み合わせた複合経営が特色であるが、近年、高齢化が進み、特に土地利用型作物の担い手が不足している状況にある。
- ・TanakaFarm誠は地域の大麦、大豆の生産を牽引する担い手として、農地の耕作依頼も多く、今後も大麦、大豆を拡大していく計画である。

TanakaFarm誠の大麦・大豆作付概要(R6年)

品目	面積	単収	生産量
大麦	47.9ha	271kg/10a	130t
大豆	13.6ha	180.5kg/10a	24t

【課題】

- ・面積の拡大が進むことで適期作業が困難になっていることから、今後の作付拡大に対応するための機械整備や、作業の効率化を図る必要がある。
- ・生産力、品質向上のため、排水対策等、栽培方法の見直しを図る必要がある。

【課題解決に向けた取組方針】

- ・面積拡大に対応するため、高性能機器(コンバイン、ロータリー、ブロードキャスター等)の導入を行う。
- ・団地化を進め、作業の効率化を図る。
- ・スタブルカルチ等を利用した排水対策を徹底し単収の向上を図る。
- ・大豆選別機の導入により、品質向上を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

1. 連携方針

・大麦、大豆の出荷については、出荷先となるJAしもつけと連携を取ることで、需要に応じた品種の選定、作付け面積の計画策定、出荷を行う。

2. 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状と目標値

【産地】(栃木市 株式会社Tanaka Farm誠)

品目	品種名	現状	目標(R9)	供給先
大麦	ニューサチホゴールドデン	144t(R5)	158t	■■■■■
大豆	里のほほえみ	24t(R6)	39t	■■■■■

【実需の状況】

- ・R7年産の県産ビール大麦(ニューサチホゴールドデン)においては■■■■tの供給不足見込み
- ・R5年産の県産大豆(里のほほえみ)においては■■■■tの供給不足見込み
→TanakaFarm誠においては、大麦・大豆の面積拡大により対応

3. 目標達成に向けた具体的な方策

- ・高性能機械の導入により作付面積拡大を図る。
- ・面積拡大に当たり、地域内での話し合いにより、団地化を図る。
- ・排水対策や施肥の見直し等、作業方法を見直すことで品質、収量の向上を図る。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

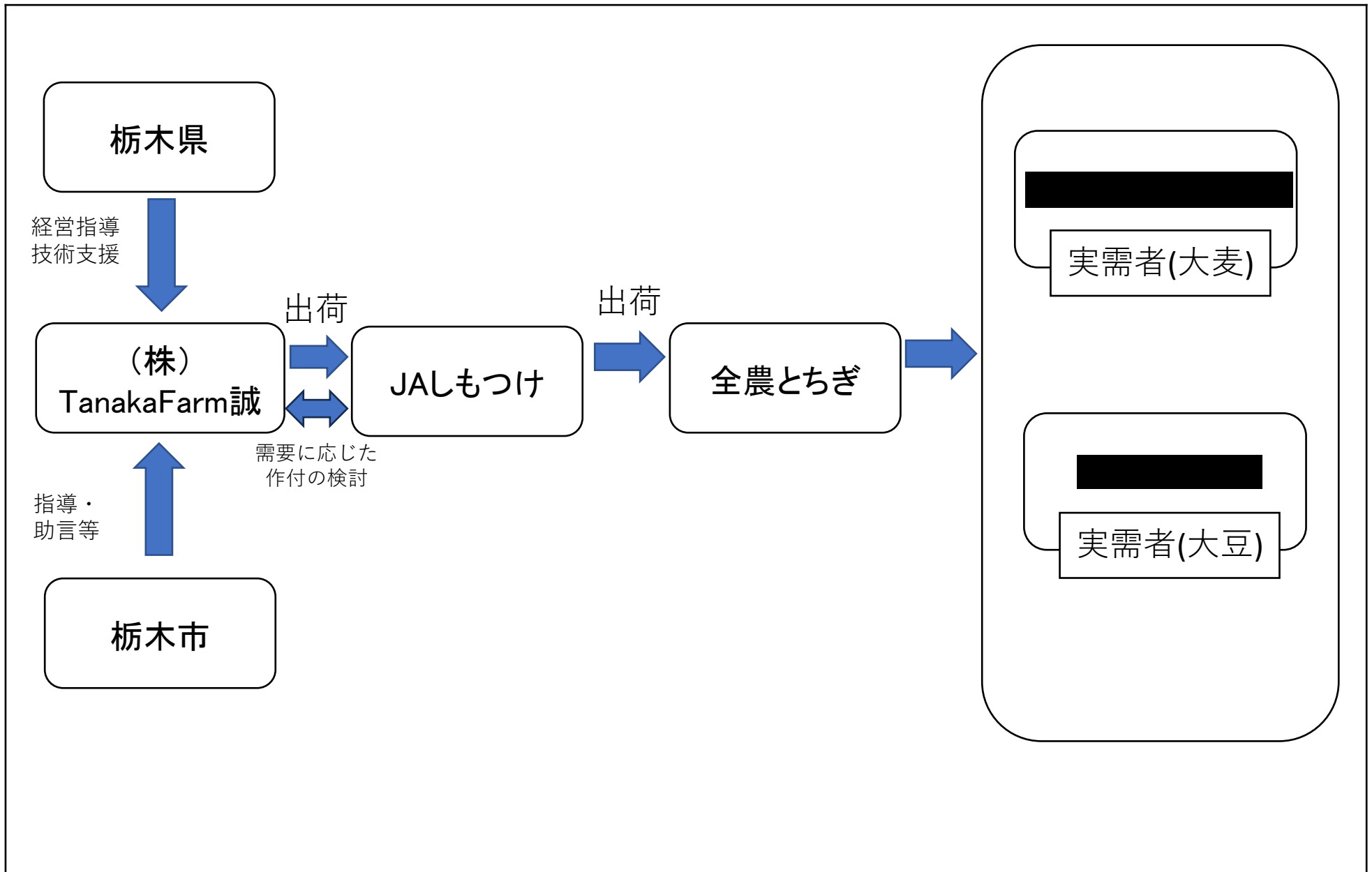
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。